



COMPASS 発達支援センター守口

事業所における自己評価総括表(公表)

○事業所名	COMPASS 発達支援センター守口
○保護者評価実施期間	令和6年9月1日～令和6年9月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 13名 (回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	令和6年9月1日～令和6年9月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 6名 (回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年10月1日

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援と集団活動のバランスの良さ 利用児童の特性に応じて、個別支援と集団活動を適切に組み合わせて提供しております。	遊びを通じた支援 ボードゲームや創作活動を通じて、楽しみながら協調性やコミュニケーション力を育てています。	職員研修の充実 発達障害や行動支援に関する専門研修を強化し、支援の質向上に努めております。
2	保護者・学校との連携強化 学習や生活支援に向け、保護者様や学校と密に連携を取っています。	日常生活スキルの向上 手洗いや片付けなど、基本的な生活スキルを練習する機会を増やしております。	新しい教材・遊具の導入 児童が楽しみながら学べるよう、遊具や教材の充実を図っております。
3	経験豊富なスタッフの配置 特別支援教育や療育経験のある職員を配置し、安心できる環境づくりに努めています。	個別支援計画の柔軟な運用 定期的にモニタリングを実施し、児童の成長に応じた見直しを行っております。	家族支援の強化 保護者様向けの勉強会や相談会を実施し、家庭での支援にもつなげています。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援スペースの確保が難しい 活動の種類が増える中で、十分なスペースが確保できない場合がございます。	施設環境の制約 限られたスペース内で多様な活動を行うことが難しい場合がございます。	スペースの有効活用 設備配置を工夫し、活動ごとに最適な環境を整えるよう努めております。
2	支援対象の年齢層の広がり 低学年から高校生までの幅広い年齢層に対応するため、年齢に応じたプログラムの細分化が求められています。	プログラムの更新が追いつかない 支援の多様化に対応するため、新しい教材や活動の導入を継続して行う必要があります。	プログラムの多様化 外部の専門家や新しい学習・遊びの手法を取り入れ、子どもたちが飽きないよう工夫しています。
3	活動プログラムのマンネリ化 長期的な通所により活動が固定化しやすく、新たな刺激のある支援の提供が必要とされています。	家庭との連携の難しさ 保護者様のご事情により情報共有が十分にできず、支援が一貫しにくい場面があります。	家庭との連携強化 保護者様との定期的な面談を増やし、支援方針を共有することで一体的な支援を目指しています。